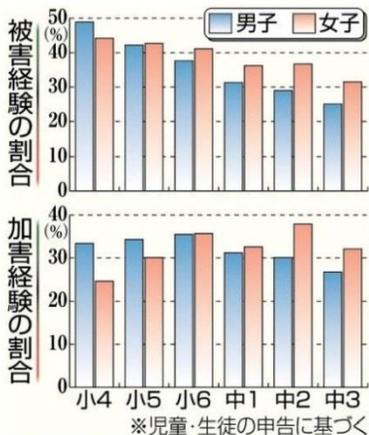


小4～中3いじめアンケート

浜松市教委、昨年実施



調査は昨年4～6月の3カ月間のいじめの実態を問う内容で、全体の95・1％に当たる4万1251人から回答を得た。いじめの被害または加害の経験がある児童・生徒は46・1％。このうち、両方の経験がある児童・生徒は19・6％だった。

性別別では、男子は「直接、悪口や嫌なことを言われた」「殴ったり蹴られたりした」など直接的な被害が目立った。女子は「陰で悪口を言われた」が最多の6割以上。「仲間はずれや無視」も4割で、間接的ないじめを受けやすい傾向が明らかになった。

加害か被害の経験半数

浜松市教委は20日に市役所で開いた市総合教育会議で、市立の小学4年生から中学3年生の全児童・生徒を対象に、昨年6月に実施したいじめに関するアンケートの結果を報告した。子どものおよそ半数に被害や加害の経験があった。市教委は教職員の研修に活用するほか、保護者にもデータを配布して課題を共有する方針。

2015年8月21日 朝刊

成長するにつれて、大人に相談しなくなる傾向も浮き彫りになった。市教委は「いじめをしたことのない子どもや、被害時に相談した子どもの方が、明らかに親や保護者との関係がよい」と分析。日ごろから児童・生徒に声を掛け、様子の変化に敏感になる必要があるとしている。

会議では、教育と文化振興の理念になる大綱の内容についても意見交換した。鈴木康友市長は、議題に「いじめの問題を加えた意図について」「いじめの事件があれば緊張が走るが、時間がたつと弛緩（しかん）する。定期的に議論する必要がある」と説明した。

①グラフを見て気づいたことを2つ書きましょう。

[]

[]

②男女別に一番多いいじめを書きましょう。

[]

③いじめをなくすために、どんなことをすればいいか書きましょう。

[]

年 組 名前

(小学校中学年以上・中学校 学活・道徳、保護者・教員)